

平成 21年 6月30日現在

研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2005～2008  
 課題番号：17320043  
 研究課題名（和文） 近世後期江戸・上方小説における相互交流の研究  
 研究課題名（英文） A Study on the Relations between Edo and Kamigata Novels Produced in the 19<sup>th</sup> Century  
 研究代表者  
 大高 洋司（OTAKA YOJI）  
 国文学研究資料館・文学資源研究系・教授  
 研究者番号：60152162

研究成果の概要：近世後期小説のうち、〈読本（よみほん）〉ジャンルは、実録・街談巷説を直接踏まえた江戸の〈中本もの〉読本及び上方の〈絵本もの〉読本が原初的な形態であり、その後江戸の山東京伝・曲亭馬琴が虚構性の強い〈稗史もの〉読本を創出したが、〈読本〉の底流には上方を中心に常に原初的要素が存在し続け、同じ流れが、江戸では人情本の形成につながったことを、実証的に明らかにした。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	4,900,000	0	4,900,000
2006年度	3,900,000	0	3,900,000
2007年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2008年度	2,100,000	630,000	2,730,000
年度			
総計	13,400,000	1,380,000	14,780,000

研究分野：日本近世文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：江戸・上方・読本・実録・人情本

## 1. 研究開始当初の背景

読本・実録・人情本に通底する近世後期小説様式の抽出・把握を目的とする国文学研究資料館プロジェクト研究「近世後期小説の様式的把握のための基礎研究」（2004～2009年

度）と連動して、従来出版・流通の側面から説明されることの多かった19世紀近世小説における江戸・上方の相互交流が、それらの様式にどのような性格を付与しているかの実態追求を課題とした。

## 2. 研究の目的

近世後期小説の研究は、現在ジャンルごとの理解が中心であり、ことに江戸で制作された作品及び作者（読本で言えば山東京伝・曲亭馬琴）に集中している。本研究は、これに対して江戸と並ぶ読本の生産・消費地である上方にも視点を広げ、江戸・上方の作者・出版関係者が、互いに意識し合いながら、近代へと向かう読者層の広がりについてどう対応したかを、作品の内実に即して理解・把握しようとする試みである。この方針のもと、近時注目され始めた上方読本と実録との関係についてさらに検討を深め、人情本についても、従来指摘されてきた江戸の先行諸ジャンルと共に、上方出来の世話読み物の投影を考慮しつつ検討に当たった。

## 3. 研究の方法

読本については、江戸・上方読本の良質な原本資料を多く所蔵する八戸市立図書館の全面的な協力を得て、厳密な書誌調査とサンプルデータのデジタル撮影を行った。

実録については、八戸市立図書館所蔵本の書誌調査と共にサンプルデータのデジタル撮影を行い、また主として国文学研究資料館のデータに基づく所在調査を実施した。

人情本については、中本型読本と密接な関係をもつ文政期人情本を中心に、複数の個人所蔵本の集中的調査を行い、サンプルデータ、または全冊の撮影を行った。

読本・実録・人情本の原本のうち、国文学研究資料館に所蔵されていないものについては必要に応じて購入し、研究資料として用いた。

上記データ、原本資料に基づき、研究代表者の統括のもと、連携研究者の分担により、読本・人情本・実録それぞれについて、研究

成果を反映した作品解題を執筆、それらを解題集としてまとめるに際し、分類基準に共同討議に基づく「江戸・上方の相互交流」の視点を反映させた。また撮影したデータの一部を図版として解題に添えた。

## 4. 研究成果

(1)読本については、国文学研究資料館及び八戸市立図書館所蔵本を中心とする解題集、『読本【よみほん】事典』を刊行した（2008年2月）。

(2)文政期を中心とする人情本解題集『人情本事典（仮題）』を刊行準備中である（2009年11月予定）。

(3)国文学研究資料館特別展示「江戸の長編読みもの—読本・実録・人情本—」のパンフレットとして、「八戸市立図書館所蔵実録解題」を発行準備中である（2009年9月予定）。

(4)本研究のテーマに基づく個々の成果については、共同研究会を開催して共有し、その一部を、「江戸文学」40号「特集・〈よみほん様式〉考」（2009年5月）の紙面を用い、成果報告論文集として刊行した。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7件）

- ① 菊池庸介、「実録から絵本読本へ—二つの「忠孝美善録」」、「江戸文学」（ぺりかん社）、40、pp61—75、2009、無
- ② 大高洋司、「〈一代記もの〉における江戸と上方」、「江戸文学」（ぺりかん社）、40、pp76—86、2009、無
- ③ 大屋多詠子、「『昔話稲妻表紙』の歌舞伎化と曲亭馬琴」、「江戸文学」（ぺりかん社）、

40、pp87-91、2009、無

- ④ 田中則雄、「浄瑠璃の読本化に見る江戸風・上方風」、「江戸文学」(ぺりかん社)、40、pp92-105、2009、無
- ⑤ 檜山裕子、『朝顔日記』の文芸的展開、「江戸文学」(ぺりかん社)、40、pp106-109、2009、無
- ⑥ 大高洋司、「上方初期(稗史もの)読本の検討-『月華惟孝』に即して-」、『日本のことばと文化-日本と中国の日本文化研究の接点-』、溪水社、2009(予定)、無
- ⑦ 大高洋司、勝又基、菊池庸介、高橋圭一、藤沢毅、山本卓、「八戸市立図書館所蔵実録解題」、2009(予定)、無

[図書](計 2件)

- ① 大高洋司、井上泰至、木越俊介、鈴木圭一、津田真弓、檜山裕子、二又淳、山杳誠、『人情本事典(仮題)』、笠間書院、2009(予定)
- ② 大高洋司、飯倉洋一、大屋多詠子、菊池庸介、木越俊介、金時徳、近藤瑞木、田中則雄、濱田啓介、檜山裕子、藤沢毅、山本卓、湯浅佳子、『読本【よみほん】事典江戸の伝奇小説』、笠間書院、pp178、2008

[その他]

本研究の成果の一部は、国文学研究資料館特別展示「江戸の長編読みもの-読本・実録・人情本-」(2009年9月24日~10月23日予定)に反映される。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大高 洋司 (OTAKA YOJI)

国文学研究資料館・文学資源研究系・教授

研究者番号：60152162

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

飯倉 洋一 (IIKURA YOICHI)

大阪大学大学院・文学研究科・教授

研究者番号：40176037

大屋 多詠子 (OYA TAEKO)

青山学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50451779

勝又 基 (KATSUMATA MOTOI)

明星大学・日本文化学部・准教授

研究者番号：00409533

菊池 庸介 (KIKUCHI YOSUKE)

学習院大学文学部・非常勤講師

研究者番号：30515838

木越 俊介 (KIGOSHI SHUNSUKE)

山口県立大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：80360056

小二田 誠二 (KONITA SEIJI)

静岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：80225474

近藤 瑞木 (KONDO MIZUKI)

首都大学東京・人文科学研究科・助教

研究者番号：20305402

高橋 圭一 (TAKAHASHI KEIICHI)

大阪大谷大学・文学部・教授

研究者番号：90188003

田中 則雄 (TANAKA NORIO)  
島根大学・法文学部・教授  
研究者番号：00252891

津田 眞弓 (TSUDA MAYUMI)  
慶應義塾大学・経済学部・准教授  
研究者番号：40390588

濱田 啓介 (HAMADA KEISUKE)  
花園大学・文学部・客員教授  
(京都大学・名誉教授)  
研究者番号：50026720

檜山 裕子 (HIYAMA YUKO)  
国文学研究資料館・文学資源研究系・  
機関研究員  
研究者番号：00446254

藤澤 毅 (FUJISAWA TAKESHI)  
尾道大学・芸術文化学部・教授  
研究者番号：20289268

山本 卓 (YAMAMOTO TAKASHI)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号：60230562

湯浅 佳子 (YUASA YOSHIKO)  
東京学芸大学・人文社会科学系・准教授  
研究者番号：00282781